

2025 年特許情報フェア&カンファレンスの出展者プレゼンテーションにおける AI 活用についての分析と戦略展望

Gemini Deep Research

エグゼクティブサマリー

本レポートは、2025 年特許情報フェア&カンファレンスの包括的な分析を提供し、出展者 86 社すべてのプレゼンテーションの詳細なガイドと、知的財産（IP）環境を形成する主要トレンドの戦略的分析を提供します。分析の結果、2025 年のカンファレンスは決定的な転換点となることが明らかになりました。人工知能（AI）は、効率化のための周辺ツールから、IP バリューチェーン全体にわたる変革の中心的原動力へと移行しました。特定された主要トレンドには、AI for IP ソリューションが汎用ツールから高度に専門化されたタスク特化型アプリケーションへと成熟していること、自律ワークフローを実行できる「エージェント AI」の顕著な出現、そしてこれらの変化が企業の知的財産部門、法律事務所、そして個々の専門家にもたらす重大な戦略的要請が含まれます。本レポートは、カンファレンスの内容に関する完全な参考資料として、また、進化する AI 主導の知的財産の未来をナビゲートするための戦略的ガイドとして役立つように構成されています。

セクション 1: 出展者プレゼンテーションの総合ガイド

このセクションでは、カンファレンスで予定されているすべてのプレゼンテーションの完全かつ構造化された概要を提供します。これは、後続の分析セクションの基礎となるデータセットとして機能し、包括的なリストを求める主要な要望を満たします。

会議スケジュールの紹介

次の表は、公式プログラムに基づいて、2025 年特許情報フェア & カンファレンスの 86 件のプレゼンテーションすべてを詳細に示しています。¹カンファレンスの中心テーマを分析しやすくするために、タイトルや説明に「AI」「生成 AI」「LLM」「AI エージェント」などの AI 関連用語が明示的に含まれている発表には、「AI 関連」の欄に「●」マークを付けました。

表 1：2025 年特許情報フェアおよびカンファレンス発表の全スケジュール

プレゼンテーション ID	プレゼンター/企業	プレゼンテーションタイトル	コンテンツの説明	AI 関連
P8	(株)ジー・サーチ	研究開発・技術戦略を成功に導く! 技術探索アプローチ	生成 AI が普及する一方で、情報の信頼性や裏付けがこれまで以上に問われています。本セッションでは、技術探索の初期調査を軸に、信頼性の高い情報をもとにした効率的な調査アプローチをご紹介します。また、科学技術情報データベース「JDreamII」をはじめとした当社の調査分析サービスで実施できる、調査効率化とアイデア創出のヒントをお伝えします。	●

P9	増幅された AI	特許データプラットフォームと AI エージェントの融合	AI エージェントが Amplified のデータプラットフォームを使って特許調査の検索からレポート作成を全自動で行う様子を実演します。また、その他の様々なエージェント機能(明細書作成やポートフォリオ分析)を紹介し、今後の知財業務の方向性を議論します。	●
P10	PatSeer Technologies Pvt Ltd.	次世代の特許・意匠リサーチ	本講演では、AI による特許検索と分析を取り上げ、処理速度と精度の向上に焦点を当てます。 PatSeer の先進技術が特許調査をどのように変革し、研究開発およびイノベーションチームを効率的に支援するかを探ります。	●
P11	北京林知的財産代理有限公司	AI 関連出願の中国無効審判実務	中国は、AI 関連特許の出願大国の一つであり、AI 関連特許出願の適格性、開示要件、及び進歩	●

			性判断は、昔から話題になったものの、出願段階に限られている。本プレゼンテーションでは、中国における AI 関連出願の無効審判事例を基に、AI 関連出願の中国における戦略を共有する。	
P12	マルクビジョン株式会社	世界の担当者が語る! AI ブランド保護の事例紹介	「AI で本当にブランドが守れるの?」ーそんな疑問を抱く人に聞いてほしい。マークビジョンを導入した欧米の著名ブランド担当者が、導入前の課題、なぜマークビジョンを選んだのか、導入後にどう変わったのか、AI がどう役立っているのかを現場視点で語る。日本企業にも通じるヒントと気づきが詰まったセッション。	●
P13	(株)マークアイ	板挟みは辛いよ・・・ネーミングを決める際の商標担当者の悲	現場担当者の希望するネーミングを通したい。一方で商標を甘く見るわけには	

		哀	いかない。両方に挟まれて悩む商標担当者及び責任者の方々は多いでしょう。この課題をコミュニケーションで改善していくにはどうするか。長年のネーミング制作経験をもとに両者の立場を考えながら進めるコミュニケーション方法をお伝えします。	
P14	チャダ&チャダ	インドにおける知的財産部門設立後の特許権行使	本講演では、インドにおける知的財産部門の設立後に見られる主要な傾向である、審理期間の短縮、仮差止命令および恒久的差止命令の発令件数の増加、そして損害賠償額の高額化に焦点を当てます。	
P15	エクセルスカウト/ティーティーコンサルタント	知財戦略の進化を支える Agentic AI: 構想・保護・収益化の次なるかたち	AI エージェント AI は「指示待ちの時代を超え、自ら考え動く「Agentic AI」へと進化しています。本セッションでは、XLSCOUT が開	●

			発した Agentic AI—Speciminer ParaPics を通じて、「技術と特許との視覚的マッピング」など、これまで個人的だった工の島化・効率化の方法をご紹介します。これらの種用は、Invalidator LUM ClaimChart LLM などの LLM ツールと連携し、発明創出から特許取得、収益化に至るまでの一貫した AI をします、財・ライセンス・R&D・特許にいるさまに、Agentic AI による“ひとつ先の知財務をご提案します。	
P16	(株)ハイパーギア	知財文書の管理は「所在の明確化」と「長期の真正性確保」が!	知財の文書管理では「目的の文書が見つからない、探すのが大変」と悩む企業も多いです。特許係争など、将来的なリスクを回避するためには、文書を適切に管理し、長期的な真正性の維持が不可欠です。本セミナー	

			では文書の所在を明確化し、タイムスタンプによる真正性確保を自動で実現する方法を、導入事例を交え紹介します。	
P17	中国深圳市、賽恩北吉知的財産代理有限公司	米中市場におけるブランド保護戦略と迅速権利行使実務	意匠権・実用新案権・商標を活用した効果的なブランド保護の構築手法と、ECプラットフォームにおける優害発生時の迅速対応策を習得いただけます。米中両国の制度の差異と実践上の要点に焦点を当て、激化する市場競争において優位性を確立し市場地位を固めることを支援します。	
P18	トヨタテクニカルディベロップメント(株)	今後の広がるSEP リスク	自動車、スマート家電、工場設備、医療機器など、さまざまな分野で通信機能の搭載が当たり前となる中、それら通信機能に関する標準必須特許(SEP)にまつわるリスクが、幅広い産業領域	

			へと広がっています。ある日突然、あなたの界にも高額なライセンス要求が突きつけられるかもしれません。本セミナーでは、そうしたリスクへの備えとして押さえておきたい SEP の基礎知識から最新の制度や国際的な動向までをわかりやすくご紹介します。	
19 ページ	NGB	ポートフォリオ構築のための特許分析新指標と生成 AI 活用の可能性	生成 AI を活用した特許分析に役立つ情報収集と、出願や放棄のメガトレンドに関して NGB が提供する新指標による特許分析を融合し、客観性と戦略性を備えた特許ポートフォリオ分析について発表します。年金管理等の知財コストの費用対効果向上に有効な特許ポートフォリオの分析事例を紹介します。	●
P20	(株)ユアサポ	AI 活用で実現する弁理士・知財	AI 導入で作業時間を劇的に短縮	●

		部員の業務効率化と働き方改革	し、弁理士・知財担当者が高付加価値業務に集中できる共創型ワークフローの実践ポイントを解説します。	
P21	(株)アナクア	マイクロソフトが語る AI 活用のリアル: アナクアと進める知財業務の変革戦略	マイクロソフト社特許エンジニアリングおよび知財オペレーション担当シニアディレクター、ラグー・チナグダーバ氏とアナクアの共同講演。マイクロソフト社が考える AI 活用の課題とメリット、AI 導入の際のリアルな経験や知見、そして AI 活用戦略をアナクアのプラットフォームを通してどのように実行に移しているかを紹介します。	●
P22	(株)アイパクトリ	AI を超える、増強知能による特許翻訳「AIT」のご紹介	AI が基盤となり専門家が完成させる特許翻訳 【AIT の特徴】・自社 LLM を活用し機密データを安全に保護・高品質な翻訳でレビュー時間を短縮・技術	●

			分野に適した単語での翻訳・低コストで高クオリティな翻訳を実現	
P23	GMO ブランドセキュリティ(株)	商標活用の新分野! ブランドを模倣から守る VMC とは?	商標の出所表示機能を活用した「VMC(企業ロゴ所有証明書)」という新しい仕組みをご存じですか? ブランドの被害を防ぐ手段として、国内外で導入が進んでいます。本セミナーでは、その概要と導入メリットを解説します。	
P24	クラリベイト・アナリティクス・ジャパン(株)	コンテンツ活用が拓く知財戦略の未来: データと AI による可視化	クラリベイトの特許ソリューションは、独自のコンテンツを活用し、お客様のユースケースに着目した製品強化と AI 機能の搭載に注力しています。本講演では、知財業務への AI 活用についてグローバルな視点から特許ソリューションの最新の製品情報をご紹介します。当社のデータをお客様の AI	●

			にて活用いただくための取り組みや活用例について解説します。	
P25	アイビーリサーチ(株)	■ 特許専用 LLM■ が戦略的に明細書生成! 明細書作成の革命: 「自分が書いたような」 AI 文書生成の最前線	AI が人間と協働し、専門性の高い特許書類を「自分らしい文体」で生成する最新手法を、具体的な導入事例とともにご紹介します。特許に特化した生成 AI が各段落を順に生成し、戦略的かつ高品質な明細書作成ができます。※一切クラウド等にはアクセスいたしません。特許専用 LLM 単独で明細書生成が可能です。指定分野の公報データをデータベース化することで RAG 方式の利用も可。	●
P26	アズテック(株)	生成 AI で変わる知財調査: 現場での実践とその未来像	生成 AI で知財調査は次のステージへ——調査・分析のプロフェッショナルが、生成 AI の活用における取り組みとその将来像に	●

			ついて語るトークセッションです。【パネリスト】佐藤総合特許事務所 佐藤 寿氏、アズテック株式会社 静野健一(2023 年特許検索競技大会三分野ゴールド制覇賞)	
P27	トヨタテクニカルディベロップメント(株)	AI 翻訳が導く特許出願の新時代～スマートな権利化の秘訣～	日→英・中・東南アジア言語への AI 翻訳における出力傾向と、特許明細書翻訳データを活用した翻訳エンジンのアダプテーション事例に加え、OA 解析や審査実態に基づく新発想のポストエディット事例をご紹介します。翻訳のみならず、AI 活用による米国中間処理もご紹介。スマートな権利化を目指す方必見です。	●
P28	GMO ブランドセキュリティ(株)	商標管理に効く！注目の MCP とは	AI やチャットツールとシステムをつなぐ新たな仕組み「MCP」が注目されています。本セミナーでは、MCP の基本的なしくみ	●

			と実際の使い方を、商標管理ツール 「BRANTECT」の機能を用いてご紹介します。	
P29	NGB（株式）	インド特許出願実務ガイド ～2024 年規則改正をふまえて～	人口が世界第一位となり、マーケットとして重要性を増すインド。その特許制度の概要と 2024 年特許規則改正後の実施報告書を解説します。弊社の特許出願仲介業務や年金管理業務の経験に基づき、またインド派遣で収集した情報も交えながら、制度のポイントや実施報告書対応を具体例とともにご紹介します。	
P30	Smart-IP(株)	生成 AI×明細書作成&中間対応の最前線 ～"appla-engine"によるスマートドラフティングの実現～	特許実務に AI をどう活用すべきか、迷っていませんか?AI 導入では、業務 DX の中で AI をどう組み込むかがカギとなります。 appia-engine は、使いやすい UI と AI の連携で明細書作成・中間対応を支援	●

			するサービスです。今回は、その活用法や導入事例を通じて、AI 導入のポイントをお届けします。	
P31	北京龍安法律事務所	事例から見る企業における専利リスクおよびその対応策	本資料は、企業における専利リスクとその対応策について、具体的な事例を基に解説しています。専利権の帰属問題、新規性や進歩性の調査不足、優先権期間の管理、特許侵害訴訟の対応など、重要なリスクとその回避方法が網羅されています。また、研究開発から特許出願までの各段階における注意点や、企業がリスクを管理するための制度の必要性についても言及し、企業の知財戦略に役立つ実践的な内容となっています。	
P32	(株)エムニ	松尾研発!時間・コストを 99.9%削減!「AI 特許	AI 特許ロケットは LLM を始めとする独自の AI 技術を用いて、	●

		ロケット」	数百~数千件の特許の全文を精査・分析し、戦略の元になる示唆を圧倒的なスピード・低コストで提供します。得られる示唆の例として、高精度特許マップを作成し、競合企業や業界トレンド、自社のアイデアに対して類似性の高い特許の提案などが挙げられます。	
P33	(株)HackCamp	IP ランドスケープ×生成 AI で描く新たな事業戦略	知財・技術情報を戦略や事業にどう活かすか。多くの企業が直面するこの課題に対し、本セミナーでは、正林国際特許事務所と HackCamp による共創の取り組みをご紹介します。生成 AI ツール「共創ナビ ivan」を活用し、特許群からテーマを導き、事業化へと展開する実践的な共創モデルを解説します。	●

P34	(一社)発明推進協会	合理的な知財戦略で Office Action は減らせる!!!	海外出願に対する、不本意な補正、膨大なコスト、長すぎる権利化プロセス、権利化の断念.... これらの問題は、OA の回数や OA 応答の質と密接な関係にあります。OA を減らし、発行された OA には最適な応答を行い。早期に特許査定を実現するためには、何が必要か。国内外の実務者とともに質の高い情報を紹介します。	
P35	(一社)発明推進協会	合理的な知財戦略で Office Action は減らせる!!!	海外出願に対する、不本意な補正、膨大なコスト、長すぎる権利化プロセス、権利化の断念 これらの問題は、OA の回数や OA 応答の質と密接な関係にあります。OA を減らし、発行された OA には最適な応答を行い、早期に特許査定を実現するためには、何が必要か。国内外の実務者とともに質	

			の高い情報を紹介します。	
P36	(株)ジー・サーチ	技術戦略を革新する「論文×特許×専門紙」の統合可視化プラットフォーム	「技術動向 研究者情報」など目的別の検索画面から結果を自動でグラフ化する「JDream Innovation Assist」の紹介です。論文・特許から得られる技術の研究・開発情報に、専門紙から得られる技術の事業化や企業の事業活動の情報を合わせることで技術俯瞰を効率化します。事業戦略や新規テーマ創出など初期調査の効率化に貢献します。	
P37	(株)エムニ	松尾開発!時間・コストを 99.9%削減!「AI 特許ロケット」	AI 特許ロケットは LLM を始めとする独自の AI 技術を用いて、数百~数千件の特許の全文を精査・分析し、戦略の元になる示唆を圧倒的なスピード・低コストで提供します。得られる示唆の例として、高精度特許マッ	●

			プを作成し、競合企業や業界トレンド、自社のアイデアに対して類似性の高い特許の提案などが挙げられます。	
P38	アール・ダブリュ・エス・グループ	知財業務の効率化に!今こそ活用したいワンストップ知財サポート	グローバル出願に必要な知財関連業務を、ワンストップで支援する RWS テクノロジーと専門知識を融合させた知財ソリューションにより、知財ご担当者様がコア業務に専念できる環境づくりをお手伝いします。本セッションでは、これらのソリューションのご紹介に加え、日本語インターフェースに対応し、さらに使いやすくなった外国出願ポータル「Inovia」と、特許年金ポータルの最新デモもご覧いただけます。	
P39	パットスナップ	新 AI AGENT による知財ソリュ	Patsnap は最新鋭の AI を駆使し、知財ソリュ	●

		ーションの強化	ーション Analytics の AI 要約、自 AGENT シリーズ Eureka (新規性調査、動 分類、新 AI Claim 作成補助 など)により知財 業務をサポート します。 Analytics の新規 機能を紹介します。	
P40	(株)ASU	AI が描く 特許調 査の未来 対比 から可視化まで 瞬時に!	新製品 Alcrea(ア イクレア)をご紹 介します。1- ChatGPT-最新モ デル AI を利用し て先行技術調査, 動向調査,侵害調 査時に公報、出 願 Word 文書と 比較して瞬時に 対比表を作成 し、調査業務を 支援します。2・ 自社知財データ を各グラフで分 析、表記し AI で コメント評価を します。講師 ASU	●
P41	アイ・ピー・フ ァイン(株)	研究現場の情報 ハブ「R&D ラ ンドスケープ IIC」&知財 DX ラボ報告	知財情報・文 献・画像・非特 許情報を一元活 用。R&D ランド スケープ IIC が 切り拓く、研究 開発と知財部門	

			をつなぐ DX の最前線を紹介します。	
P42	トヨタテクニカルディベロップメント(株)	swimy の生成 AI エージェントでイノベーションを加速する	発明アイデアを入力するだけで、図やフローチャート付きの発明提案書を自動生成。さらに、技術概要を入力するだけで特許情報を分析し、グラフ付きの解析レポートまで自動作成。化学式や数値範囲にも対応し、発明創出から特許分析までを一気通貫で支援する swimy の最新生成 AI エージェントの進化を、本セミナーでぜひご体感ください。	●
P43	(株)マークアイ	中国における知財最新状況 ~出願数増加に伴う企業戦略~	本セミナーでは出願動向や実務上の留意点、中国特許庁の最新動向、調査・監視の重要性を解説し、日本企業にとって実効的な対策となる情報について、日中双方の専門家である柳沈法律事務所の張華威	

			先生をお招きし、ご講演いただきます。	
P44	アイビーリサーチ(株)	特許専用 LLM■ が戦略的に明細書生成!	特許に特化した生成 AI が各段落を順に生成し、戦略的かつ高品質な明細書作成ができます。※一切クラウド等にはアクセスいたしません。特許専用 LLM 単独で明細書生成が可能です。指定分野の公報データをデータベース化することで RAG 方式の利用も可。	●
P45	Axelidea(株)	AI が拓く創造知のフロンティア: ひらめきを連れてくる AI	創造知のフロンティアで、AI がひらめきの扉を開く。AXELIDEA Patent が新たなひらめきを導きます。特許番号から瞬時に価値を見出す次世代システムを無償公開。専門家の知見を AI に結集し、知財戦略・技術移転・新規事業まで包括的に提案。日本企業の無形資産価値を飛躍的に高める、知財イノ	●

			バージョンの最前線をご紹介します。	
P46	(株)デンネマイヤー	IP ライフサイクルの最適化: 管理システム DIAMS と IP サポートサービス	DIAMS シリーズに新機能登場。導入時の最大の課題であるデータ移行に対し、支援サービスもご提案いたします。コスト・リスク・工数を最小限に抑え、システムのスムーズな移行と運用を実現。IP ライフサイクルに対応したテクノロジーと専門知識を融合し、導入から運用まで、安心してご利用いただける環境を整えます。	
P47	作業中	POSCO の特許専門家が発表する「新規事業企画に活用される AI-融合 IP 戦略事例」	今日、産業全体において AI の活用が急速に広がり、企業もそれに基づいて新しい事業機会を模索しています。そんな中、IP 戦略も単なる権利確保を超え、将来のビジネス方向性に繋がる核心戦略要素として浮上しています。今回は、韓	●

			国のグローバル企業 POSCO の特許専門家をお招きし、AI と IP を融合し、新規事業企画に活用する戦略を実際の事例を通じて紹介します。	
P48	クラリベイト・アナリティクス・ジャパン(株)	知財管理システム IPfolio が実現する効率化・AI 活用	Salesforce プラットフォームを基盤とした知財管理システム IPfolio は、導入企業が増加し、知財管理の高度化・効率化を実現しています。本講演では、ユーザーから高く評価されている中核機能。当社の他ソリューションとの連携による業務最適化や AI を活用したアップデート、今後の展望についてご紹介します。	●
P49	Questel(サイバーパテント(株))	AI で実現する特許検索・解析の効率化と活用事例紹介	AI アシスタント「Sophia」が、検索条件の作成から特許文献の要約、自由な対話を通じた解釈支援まで、知財業務の新しい可能性を広げま	●

			す。弊社の製品担当からのご案内に加え、実際のユーザ事例としてコベルコビジネスパートナーズ(株)産業情報部の調査担当者様より活用事例をご講演いただきます。	
P50	マルクビジョン株式会社	AI を駆使したブランド保護の最前線: グローバルブランドに選ばれる理由とは?	ハーバード・ロースクール出身、シリコンバレーに拠点を置くブランド保護を AI で革新するマークビジョン創業者兼 CEO Mark Lee が登場、たった 5 年で 250 社以上にまで急成長した裏側、グローバル企業がマークビジョンの AI のブランド保護を選ぶ理由、IP やブランド保護業界の未来を語る必見セッション!	●
P51	クルツジャパン(株)	【偽造防止対策】複製不可能な暗号化 QR コードによる真顔判定サービス	偽造品やグレーマーケット対策でお困りの企業の方必見 KURZ SCRIBOS の ValiGate®は、独自開発技術の特殊な印刷パター	

			ンを使った QR コードによるオンライン真判定ソリューション。正規品判定に加え、不正流通の検出、マーケティングツールとしても活用可能、最新のグローバル事例と共に紹介します。	
P52	GMO ブランドセキュリティ(株)	GMO が解説するなりすまし対策の今	なりすましによる被害は、企業にとって深刻なリスクです。本セミナーでは、GMO ブランドセキュリティが提供する「GMO なりすまし ZERO」の診断ロジックを紹介し、効果的な対策手法を総合的に解説します。	
P53	日本パテントデータサービス(株)	マルハニチロから Umios へ!~マルハニチロの知財活動紹介~	マルハニチロ株式会社におけるゼロからの知財部門立ち上げの経緯と経営企画部内に設置された知財部門としての気づき、そして「Umios 株式会社」への社名変更プロジェクトに知財部門	

			として参画したなかでの経験を、JPDS サービスの活用事例を交えてご紹介します。	
P54	(株)IP-RoBo	商標出願代理トップクラスの特許事務所の商標AI活用最前線	年間 2,000 件以上の商標代理を手がけており、商標出願代理件数も我が国トップクラスの特許事務所が語る、商標調査 AI 「TM-RoBo」活用最前線 業務効率 70%削減、見落とし防止、人材育成の実現。AI と人の理想的な協業で、高品質な知財サービスを提供する秘訣を深掘りします。	●
P55	中国知的財産出版社株式会社 (IPPH)	AI 時代が導く中国特許検索・分析の変革	中知慧海 (PatSea) Big Data とインテリジェント・サービス・システムの機能に基づき、中国特許の検索、閲覧、ソーティング、分析など多くの場面における作業効率の向上、作業難易度の低減、より多くの	●

			事業実現を目指すインテリジェント検索、機械翻訳、ビッグデータ関連加工、生成大規模モデルなどの AI 技術の活用を紹介する。	
P56	(有)アクアプラネット	AI と独自検索エンジンにより特許調査自動化を実現、目視不要!	本セミナーでは、AI と独自の検索エンジンを搭載した特許検索サービス Pat Visual をご紹介します。従来の特許検索は検索式作成、目視確認が必要でしたが、 PatVisual では新しい検索式の作成も不要、検索結果の細かな目視確認も不要で、特許調査を自動化できます。AI と独自の検索エンジンが類似特許を自動的に抽出し、近い順に内容を可視化,比較結果を自動的に作成します。	●
P57	GMO ブランドセキュリティ(株)	IPRAD RYOMA byGMO が提案する、次世代の知財管理	これからの知財管理に不可欠な機能と「知財データの戦略的活用」についてご	

			紹介します。ビジネスに活かすデータ分析を可能にし、業務の流れを意識した機能で、直感的かつスムーズな権利化業務を実現し、担当間のコミュニケーションロスを大きく削減します。 IPRAD RYOMA byGMO の全貌をぜひご体験ください。	
P58	(株)日立製作所	日立知財ソリューション～次のステージへの取り組み～	知財業務は今、出願・管理中心の運用から、経営戦略と連動した知財の価値創造へと進化しています。日立の知財ソリューションは、業務プロセスのデジタル化と高度な分析機能により、知財の可視化・戦略活用・意思決定を強力に支援します。	
P59	(株)ユアサポ	AI 活用で実現する弁理士・知財部員の業務効率化と働き方改革	AI 導入で作業時間を劇的に短縮し、弁理士・知財担当者が高付加価値業務に集中できる共創型ワークフロー	●

			の実践ポイントを解説します。	
P60	(株)HackCamp	三菱電機に学ぶ、生成 AI で加速する知財を起点にした事業開発	本講演では、三菱電機の実践事例をもとに、「共創ナビ Ivan」を活用することで、技術資産(特許・ノウハウ)を活用しながら、人と AI との共創によって事業創造の課題を改善したプロセスとその要因をひも解きます。知財を起点にイノベーションを生み出す組織づくりのヒントを、ぜひお持ち帰りください。	●
P61	巨群国際特許商標法律事務所	台湾の企業が日本の企業共に協力して発明を守るためのネットワークを構築する	台湾企業は高度な技術力と革新性を持ちながらも、日本市場への展開や特許戦略において多くの課題に直面しています。本講演では、巨群事務所が長年にわたり日台の知財実務に携わってきた経験をもとに、台日企業間の連携による知財保護ネットワ	

			ークの重要性と構築方法についてご紹介します。特に共同出願、ライセンス契約、情報共有の仕組みづくりなど、実践的な視点からお話します。	
P62	トヨタテクニカルディベロップメント(株)	AI 翻訳が導く特許出願の新時代～スマートな権利化の秘訣～	日→英・中・東南アジア言語への AI 翻訳における出力傾向と、特許明細書翻訳データを活用した翻訳エンジンのアダプテーション事例に加え、OA 解析や審査実態に基づく新発想のポストエディット事例をご紹介。翻訳のみならず、AI 活用による米国中間処理もご紹介。スマートな権利化を目指す方必見です。	●
P63	(株)知財塾	企業知財人材に必要な実務教育のあり方と方法のアップデート	企業の知財人材に求められるスキルは、事業・研究開発に入り込み知財戦略を推進すること、知財権の活用を想定しポートフォリオを形成す	

			ること、知財を言語化し専門文書に落とし込むこと、法基準に照らし実務手続を遂行することなど…その範囲は拡がり続けています。こうしたなかで、如何に早く的確に基礎スキルセットを習得できるかは課題であり、教育方法のアップデートについて知財塾と知財の楽校の目線からお届けします。	
P64	(株)ユアサ no	独自データで鍛える AI: 知財文書作成の新スタンダード	自社(自事務所)の過去出願データを AI に学習させ、文書品質を飛躍的に高める最新技術とその効果を実証データを交えて詳しく解説します。	●
P65	キム&スチュワート法律事務所	生成 AI で実現する、合理的な米国特許実務のコスト削減策	高コストな米国特許取得において、多くの日本企業や特許事務所が生成 AI 活用を模索しています。本講演では、日本の出願人・代理人が生成 AI を用いて、	●

			米国特許実務のコストを合理的に削減するための具体的な施策を提案します。	
P66	ヴァリュエネックス	R&D インテリジェンスの促進に向けた特許情報活用	VALUENEX は、特許などのビッグデータを俯瞰的に解析するソリューションを通じて、企業の R&D インテリジェンス機能の強化とイノベーション創出の支援を行います。本セミナーでは、俯瞰解析や生成 AI を活用した事例をご紹介します。	●
P67	クラリベイト・アナリティクス・ジャパン	知財管理システム IPfolio が実現する効率化・AI 活用	Salesforce プラットフォームを基盤とした知財管理システム IPfolio は、国内外で導入企業が着実に増加し、知財管理の高度化・効率化を実現しています。本セッションでは、ユーザーから高く評価されている中核機能、クラリベイトの他ソリューションとの連携による業務最適	●

			化や AI を活用した最新アップデートと今後の展望などについてご紹介します。知財を資産として活用するためのヒントを、ぜひお持ち帰りください。	
P68	ルート IP	知財管理効率化の最前線 AI エージェント/管理システム連携	AI と管理システムを融合させ、知財業務の自動化と効率化を加速します。企業と事務所間のデータ連携が root ip 内で完結し、メール受信に基づくタスクの自動処理も実現、特許庁とのデータ連携、データ診断機能。PCT-RO 英文明細書処理、特殊申請支援ツール PPW8 への移行方法等も説明いたします。	●
P69	パットスナップ	知財、R&D、創薬を牽引する AI AGENT 新登場	Patsnap が革新的な AI AGENT シリーズ New Eureka を発表。2025 年を AI AGENT の元年と捉え、知財、R&D、創薬、材料領域向けに新	●

			たな大型製品群を同時リリースします。知財を含むイノベーション情報と AI 技術を結びつけ、各分野のイノベーションにパラダイムシフトをもたらします。	
P70	パテント・インテグレーション(株)	中小企業優秀賞受賞!「サマリア」の AI 新機能のご紹介!	知財系生成 AI サービスで唯一となる、りそな財団主催「中小企業優秀新技術・新製品賞」を受賞した特許読解支援 AI アシスタント【サマリア】の新機能を紹介。企業知財において、拒絶対応から IP ランドスケープまで、様々なシーンで日常の知財実務を強力にサポート。特許取得済の多数の当社独自技術を簡単にご紹介します。	●
P71	アイ・ピー・フライン(株)	生成 AI で加速、無限の可能性! 3 つの業務革新「AI ワーカー」	R&D 知財グループウェア「THE 調査力 AI と R&D ランドスケープ IIC」に生成 AI を活用した 3 つの機能を搭載!	●

			①内容の要約やKW の抽出 ②他社製品との類似度を調査「製品情報リサーチ」 ③自由入力で情報収集や整理ができる「マイ AI ワーカー」業務を加速させる次世代機能を、ぜひご体験ください。	
P72	(株)マークアイ	「ブランド TLD 次回ラウンド開始 ～いま必要な知識とは?～」	知らないと乗り遅れる!2026 年 4 月、ブランド TLD の新申請がいよいよスタート。14 年ぶり、2 回目の申請が開始される今こそ、自社のドメイン戦略を見直し、ブランド TLD の活用価値を再確認する絶好のタイミングです。Com Laude 株式会社 村上氏が活用メリットや申請に向けた準備のポイントを徹底解説!	
P73	(株)ASU	新製品「PPW8」(ATMS/PPW 後継品)のご紹介	出願支援ソフト新製品 「PPW8」の各種機能をデモンストレーション	

			を交えご紹介します。1.(新)図面一括処理、配列表出力等 PCT-RO 英文明細書処理、特殊申請支援ツール PPW8 への移行方法等も説明いたします。J-CheckB (WORD 規定外文字チェックツール)のご紹介。	
P74	クラリベイト・アナリティクス・ジャパン(株)	コンテンツ活用が拓く知財戦略の未来: データと AI による可視化	Salesforce プラットフォームを基盤とした知財管理システム IPfolio は、導入企業が増加し、知財管理の高度化・効率化を実現しています。 本講演では、ユーザーから高く評価されている中核機能、当社の他ソリューションとの連携による業務最適化や AI を活用したアップデート、今後の展望についてご紹介します。	●
P75	(株)プロパティ	特許業務における大規模言語モデル LLM(生成	従来のマイニング技術と大規模言語モデル(生成 AI)の具体的な相	●

		AI)の活用	違点を整理しながら、自動分類、フラグ付、課題解決マップの作成等の特許業務における大規模言語モデルの活用について説明します。また、発明提案書からの明細画変換、拒絶理由対応、明細書翻訳、調査計画、特許データの俯瞰等ができる特許業務向けの Brain Talk(新製品)の紹介をします。	
P76	NGB	ポートフォリオ構築のための特許分析新指標と生成 AI 活用の可能性	生成 AI を活用した特許分析に役立つ情報収集と、出願や放棄のメガトレンドに関して NGB が提供する新指標による特許分析を融合し、客観性と戦略性を備えた特許ポートフォリオ分析について発表します。年金管理等の知財コストの費用対効果向上に有効な特許ポートフォリオの分析事例を紹介します。	●

P77	トヨタテクニカルディベロップメント(株)	swimy の生成 AI エージェントでイノベーションを加速する	発明アイデアを入力するだけで、図やフローチャート付きの発明提案書を自動生成。さらに、技術概要を入力するだけで特許情報を分析し、グラフ付きの解析レポートまで自動作成。化学式や数値範囲にも対応し、発明創出から特許分析までを一気通貫で支援する swimy の最新生成 AI エージェントの進化を、本セミナーでぜひご体感ください。	●
P78	Questel(サイバーパテント(株))	AI×知財管理システム×サービスによる統合ソリューション	知財管理システムに AI と実務支援サービスを組み合わせた統合ソリューションの最新動向をご紹介します。出願・翻訳・年金管理、OA 対応を含む実務の効率化と最適化を、実際の活用事例を交えて解説します。	●
P79	NGB (株式)	NGB 知財事務サ	「属人化・煩雑	

		ービスで、あなたの知財部に余白と機動力を	化・期限不安」——その知財事務の悩み、私たちが引き受けます。特許・商標などの出願・権利化を支える業務を整理・標準化し、実行まで代行。貴社の知財部門に、余白と動力をもたらします。	
P80	(株)IP-RoBo	AI 導入で進化する特許事務所の業務と顧客サービス	商標調査 AI 「TM・RoBo」導入で業務はどう変わる?AI 関連特許出願を多数手がける中辻弁理士が語る 【劇的効率化】の秘訣!懸念だった AI の識別力判断をどう乗り越え、調査漏れリスク解消、新案件獲得、人材育成まで実現したのか。AI 活用最前線のリアルな声を、AI 技術に精通している弁理士の目線で語っていただきます。	●
P81	NGB×(株)AISamrai×トヨタテクニカルディベロップメント	知財情報の価値とは? 技術革新がもたらす IP ランドスケープの	近年、経営戦略立案に IP ランドスケープを活用する企業が増え	●

	(株)	進化	ています。このため、トヨタテクニカルディベロップメントは2025年4月にIP ランドスケープの専門グループを立ち上げました。IP ランドスケープの実践に際して、公開情報や特許情報の収集、社内情報の活用にお悩みの方へ解決に向けたヒントを提供できれば幸いです。	
P82	GMO ブランドセキュリティ (株)	14 年ぶりのチャンス到来! ブランド TLD の徹底活用術!	インターネット上の極上の一等地である「ブランド TLD」を活用して、ガバナンス、ブランドセキュリティ、マーケティング・ブランディングを強化しませんか。ブランド TLD の取得から活用までを企業の具体的事例とともに網羅的にご紹介します。参加特典: 「ブランド TLD 徹底活用ガイド (1,650 円相当)」を特別進呈!	

P83	日本パテントデータサービス (株)	江崎グリコ マーケティングにつなげる商標戦略	江崎グリコ株式会社では、JPDSの「Brand Mark Search」を活用して、日本国内で新しく出願または登録された商標のウォッチングを定期的に行っている。この中で、商標の出願・登録状況を分析するだけではなく、商標から読み取れる世の中の新しい動きやトレンドの気付きなどマーケティング部門と連携している。今回は具体例を挙げながら、マーケティングにつなげる江崎グリコの商標戦略についてご紹介。	
P84	(株)発明通信社	知財業務の“あるある課題”を AI で解決! 業務効率化の事例紹介	最近注目を集めている AI ですが、知財業務の中ではどのように活用するのが効果的なのでしょうか。本プレゼンでは知財業務の“あるある”な課題に対し、AI の活用によって得られる業務改善のヒントや	●

			実務の幅を広げるきっかけとなる事例をご紹介します。	
P85	フレーズ	Phrase の翻訳 AI エージェント が変える、特許 翻訳の未来	特許翻訳では、用語の統一や表現の一貫性といった高い翻訳品質が求められる一方、短納期対応やコスト削減といった課題も存在する。本セミナーでは、Phrase が提供する AI エージェント機能を活用し、これらの課題を解決するためのワークフロー最適化の手法を紹介する。翻訳品質を維持しながら、業務効率化を実現したい方必見。	●
P86	NGB（株式）	中国知財訴訟における証拠の重要性	統計によれば、最近の中国専利民事訴訟の件数は、米国の約 15 倍、日本の約 70 倍に達しています。弊社ではそれに対する備え、すなわち「知財セキュリティ」を提案します。中国における裁判では証	

			拠認定のハードルが高く、日々の証拠収集が重要です。証拠の重要性と収集の方法について解説・提案します。	
P87	GMO ブランドセキュリティ(株)	経営に資する商標マネジメント	ブランディングと商標登録は、企業が市場での競争優位性を確立・維持するうえで密接に関わっています。本セミナーでは、商標を単なる権利保護の手段としてだけでなく、経営資源として積極的に活用する視点から、具体的な事例を交えて、役立つ活用法をご紹介します。	
P88	特許フィールド	Patentfield が描く「生成 AI×特許情報」の次世代化	日米欧中韓の特許情報を標準搭載し、「生成 AI 調査・分析オプション Patentfield AIR」で、膨大な中国特許を生成 AI でノイズ判定や評価分析等が可能に。次に Patentfield が描く特許情報への	●

			アクセス(調査・査読・分析)をさらに容易にする次世代の特許調査・分析システムをご紹介します。	
P89	アール・ダブリュ・エス・グループ	生成 AI の活用で切り拓く特許翻訳の進化 - 品質・効率向上の新標準	特許に最適な、生成 AI を活用した最新の翻訳手法をご紹介します。品質と効率を両立する新たな翻訳ワークフローの可能性を、実例を交えて解説します。	●
P90	(株)エムニ	松尾研発!時間・コストを 99.9%削減!「AI 特許ロケット」	AI 特許ロケットは LLM を始めとする独自の AI 技術を用いて、数百~数千件の特許の全文を精査・分析し、戦略の元になる示唆を圧倒的なスピード・低コストで提供します。得られる示唆の例として、高精度特許マップを作成し、競合企業や業界トレンド、自社のアイデアに対して類似性の高い特許の提案などが挙げられます。	●

P91	IPTech 弁理士法人	生成 AI の特許事務所における活用方法と注意点の紹介	IPTech 弁理士法人では、社内ガイドラインを定めクライアントへの案内をしたうえで、2025 年 4 月 1 日から業務において生成 AI ツールの活用を始めています。特許事務所が生成 AI ツールの利用を開始するために注意すべきことと必要なこと、また実際の利用のノウハウや留意事項などをご紹介します。	●
P92	AI サムライ	「知財×AI」で切り拓く、新たな発見と共創の未来	特許業務は人間だけが担うものそんな“天動説”は過去のものとなりつつあります。AI が発想を提示し、人間がそれを発見し、更なる創作をして発明へと昇華させる。今、知財の世界は AI という“地動説”へと大きく動き出しました。知財×AI が生み出すのは、効率化だけでなく、人と AI による共創の未来です。	●

P93	アイビーリサーチ(株)	特許専用 LLM■ が戦略的に明細書生成!	特許に特化した生成 AI が各段落を順に生成し、戦略的かつ高品質な明細書作成ができます。※一切クラウド等にはアクセスいたしません。特許専用 LLM 単独で明細書生成が可能です。指定分野の公報データをデータベース化することで RAG 方式の利用も可。	●
-----	-------------	--------------------------	--	---

第 2 章 知的財産における AI 革命：テーマ別分析

2025 年のカンファレンスの中心テーマとして AI が圧倒的な存在感を示していることは、単なるトレンドではなく、業界の根本的な変革を意味します。プレゼンテーションのトピックを詳細に分析することで、AI の知的財産エコシステムへの統合が持つ普遍性、成熟度、そして戦略的影響が明らかになります。

2.1. AI の遍在性：定量的な概要

カンファレンスのスケジュールを定量的に分析すると、AI の普及ぶりが浮き彫りになります。86 のプレゼンテーショントピックのうち、46 は明確に AI に関連しており、プログラム全体の 53%以上を占めています。この集中ぶりは、AI がもはや専門家だけのニッチなトピックではなく、知的財産分野のベンダーやサービスプロバイダーの大多数にとって、議論、投資、そしてイノベーションの主要なテーマとなっていることを示しています。これらのトピックの配分はカンファレンスの 3 日間を通して一貫してお

り、1 日だけのテーマ集中ではなく、継続的な焦点となっていることを示しています。

2.2. AI-IP エコシステムのマッピング：タスク自動化からワークフロー変革まで

AI 関連のプレゼンテーションの多様性は、市場の著しい成熟を物語っています。初期の知的財産向け AI ツールは、広範な検索・分析機能に重点を置くことが多かったものの、2025 年のカンファレンスでは、プロフェッショナルワークフローにおける具体的かつ価値の高い課題をターゲットとした、高度に専門化されたソリューションが数多く紹介されています。この専門化は、ベンダーがもはや汎用的な「知的財産向け AI」というコンセプトを売りにするのではなく、知的財産ライフサイクル全体にわたる個別のタスクに対応する高度なツールを開発していることを示しています。

一般的なツールから特殊なソリューションの複雑なエコシステムへの進化は、以下の機能分類に示されています。

表 2: AI-in-IP プレゼンテーションの機能分類

機能カテゴリ	プレゼンター/会社名 & (プレゼンテーション ID)
検索、分析、IP ランドスケープ	amplified ai (P9), PatSeer (P10), NGB (P19, P76), アズテック(株) (P26), (株)エムニ (P32, P37, P90), (株)HackCamp (P33), Patsnap (P39), (株)ASU (P40), Questel (P49), 中国知識産権出版社 (P55), (有)アクアプラネット (P56), VALUENEX (P66), Patentfield (P88), NGB×AI Samrai×TTDC (P81)
発明、起草、審査	アイビーリサーチ(株) (P25, P44, P93), Smart-IP(株) (P30), トヨタテクニカルディベロップメント(株) (P42, P77)
グローバリゼーションと翻訳	(株)アイパクトリ (P22), トヨタテクニカルディベロップメント(株) (P27, P62), Phrase (P85), アール・ダブリュ・エス・グループ (P89)

ブランド保護と商標管理	Marq Vision Inc. (P12, P50), GMOブランドセキュリティ(株) (P28), (株)IP-RoBo (P54, P80)
IP 管理とシステム統合	(株)アナクア (P21), クラリベイト (P24, P48, P67, P74), root ip (P68), Questel (P78)
一般/戦略 AI アプリケーション	(株)ジー・サーチ (P8), 北京 霖知識産権代理有限公司 (P11), エクセルスカウト (P15), (株)ユアサポ (P20, P59), Axelidea(株) (P45), WIPS (P47), (株)ユアサポ (P64), Kim & Stewart LLP (P65), Patsnap (P69), パテント・インテグレーション (株) (P70), アイ・ピー・ファイン(株) (P71), (株)プロパティ (P75), (株)発明通信社 (P84), IPTech 弁理士法人 (P91), AI Samurai (P92)

明細書作成 (P25, P30)、中間対応 (P27, P30)、ブランド保護 (P12, P50) といった特定のワークフローにきめ細やかに焦点を当てていることは、市場発展の新たな段階を示唆しています。企業の知財部門や法律事務所にとって、これは二重の課題と機会をもたらします。専用ツールの利用は効率性の向上を約束する一方で、より複雑な評価・調達プロセスも必要とします。戦略的な課題は、AI 導入の是非を判断することから、どのような専用ツールを組み合わせで統合されたワークフローを構築するかを判断することへと移行しており、これはシステム統合とデータ連携に関するプレゼンテーションで直接的に取り上げられています[P68, P78]。

2.3. 「エージェント AI」の出現：ツールからチームメイトへのパラダイムシフト

A recurring and transformative concept throughout the conference is the rise of the "AI Agent" [P9, P15, P39, P42, P68, P69, P77, P85]. This represents a significant leap beyond traditional AI tools. Presentations from firms like amplified ai [P9], エクセルスカウト [P15], and Patsnap [P39, P69] explicitly frame this shift as moving beyond an AI that is 「指示待ち」 (waiting for instructions) to one that can 「自ら考え動く」 (think and act on its own).

これは単なる意味的なアップグレードではなく、知的財産業務における人間と AI のイ

インタラクションモデルの根本的な変化を示唆しています。従来のツールでは、クエリの作成、検索の実行、結果のスクリーニング、関連文書の分析、レポートのフォーマットといったプロセスの各ステップを、人間の専門家が実行する必要があります。一方、**Amplified AI** のプレゼンテーション[P9]で説明されているように、AI エージェントは、最初の検索から最終的なレポート生成まで、このワークフロー全体を自動化するように設計されています。

ワークフロー全体を自律エージェントに委任できるようになると、人間の専門家の主な役割は必然的に進歩します。焦点は、タスクのきめ細かい実行から、AI エージェントのポートフォリオの高レベル管理へと移行します。専門家の価値は、もはや検索を実行する能力ではなく、戦略目標を定義し、適切なエージェントを選択して展開し、その出力を批判的に検証し、エージェントが処理できない複雑で微妙な例外を処理する能力にあります。このパラダイムシフトは、将来の IP 専門家に求められるスキルに直接影響を及ぼし、戦略的な監視、AI 出力の検証、例外処理の熟練が、手動のタスク実行よりも重要になります。この進化は、「働き方改革」[P20、P59]の要請と、最新の専門教育とスキルセットの緊急の必要性の技術的な基盤です。²

2.4. 最前線に立つキープレーヤーとイノベーター

カンファレンス プログラムでは、AI-for-IP を推進するいくつかの主要組織にスポットライトを当て、それぞれがイノベーション エコシステムのさまざまな側面を代表します。

- **Microsoft (Anaqua との共同) [P21]** : Microsoft のような世界的なテクノロジー大手の参加は、AI for IP 市場の重要性を改めて証明するものです。知財管理のリーディングカンパニーである Anaqua との共同プレゼンテーションは、AI 基盤プラットフォームを既存のエンタープライズ IP ソリューションに深く統合することを示唆しています。AI 導入における「リアル」な課題とメリットに焦点を当てた同社の取り組みは、大規模導入の実用性について、極めて重要な根拠に基づいた視点を提供しています。⁴
- **トヨタテクニカルディベロップメント株式会社 (TTDC) [P18、P27、P42、P62、P77、P81]** : TTDC は、独自のプラットフォーム「swimy」に関する複数のプレゼンテーションなど、積極的なプレゼンスを発揮しています。これは、企業の高度な知財部門が、深い専門知識と社内データを活用し、外部の技術ベンダーへと変貌を遂げているという、力強いトレンドを象徴しています。彼らは、自らの業務

ニーズから生まれたツールを商品化し、実社会における知財実務に根ざしたソリューションを提供しています。⁶

- **大学発スピンオフ ((株)エムニ) [P32, P37, P90]** : 東京大学の名門松尾研究室に起源を持つことを明確に示すエムニのような企業の存在感は、最先端の学術 AI 研究から知的財産業界への直接的なパイプラインを示唆しています。このつながりは、この分野におけるイノベーションのペースが速く、新しい大規模言語モデル (LLM) アーキテクチャや学習方法論といった AI の基礎的なブレークスルーと密接に結びついていることを示唆しています。⁹

第3章：知的財産分野における永続的な戦略的課題

AI が議論の中心を占める一方で、カンファレンスの議題は、現代の知的財産環境を特徴づける、他の重要かつ永続的な戦略的優先事項にも光を当てています。これらのトピックは、差し迫った技術革命の先にある、業界が直面する課題と機会について、バランスの取れた視点を提供します。

3.1. グローバル IP ホットスポットのナビゲート：出願を超えて

本会議が主要な国際法域に焦点を当てていることは、グローバルな知的財産戦略の本質における大きな進化を浮き彫りにしています。議論は出願手続きの枠組みをはるかに超え、特許付与後の権利行使や訴訟といった複雑でリスクの高い現実にもまで及んでいます。

- **中国 [P11, P17, P31, P43, P55, P86]** : 中国に関するプレゼンテーションは、手続き上のガイダンスから戦略的なリスク管理へと移行しています。議題では、AI 関連特許の無効審判手続き[P11]、大規模電子商取引プラットフォームにおける権利行使戦略[P17]、そして特に訴訟における証拠収集の重要性など、高度な問題が深く掘り下げられています。中国の特許訴訟件数は日本の約 70 倍であるという主張は、権利者が乗り越えなければならない非常に激しい訴訟環境を浮き彫りにしています[P86]。
- **インド [P14, P29]** : 世界で最も人口の多い国であり、急速に成長している市場であるインドは、戦略的重要性が高まっている法域として紹介されています。トピックはこれを反映し、差止命令の増加や損害賠償額の増額など、変化する執行動向に

焦点を当てています[P14]。また、2024 年特許規則改正[P29]といった複雑な規制変更への対応の必要性にも焦点を当てています。

これらのセッションから浮かび上がった明確なパターンは、グローバルな知的財産戦略が今や、主に権利行使と訴訟リスク管理の駆け引きとなっているということです。中心的な課題はもはや、海外で権利をどのように確保するかという点だけでなく、活発でしばしば激しい法廷闘争の場において、権利をどのように守り、主張し、関連するリスクをどのように管理するかという点にあります。これは、企業のリソース配分を根本的に転換することを必要とし、出願予算にとどまらず、継続的なモニタリング、堅牢な証拠保全プロトコル、そして主要市場における訴訟準備のための準備も含める必要があります。

3.2. デジタル時代におけるブランド戦略の拡大するフロンティア

本カンファレンスでは、特許に焦点を当てつつ、ブランド保護と戦略に対する洗練された先進的なテクノロジーアプローチを実証します。取り上げられるトピックは、従来の商標登録・管理をはるかに超え、デジタルファーストの世界におけるブランド構築と保護の現実を反映しています。

アジェンダには、安全で信頼性の高いオンライン空間を構築するための新しいジェネリックトップレベルドメイン（「ブランドTLD」）の活用[P72、P82]や、メールにおけるフィッシングやブランドなりすましに対抗するための検証済みマーク証明書

（VMC）などの技術的 ID 検証標準の導入[P23]など、デジタルネイティブな積極的戦略に関するセッションが含まれています。AI を活用したオンラインブランド保護の積極的活用、e コマースサイトやソーシャルメディアにおける偽造品や著作権侵害のスクランも重要なテーマです[P12、P50]。

さらに、江崎グリコによる JPDS の「ブランドマークサーチ」サービス活用に関するケーススタディは、知的財産とマーケティングの戦略的な架け橋を示しています[P83]。このケーススタディでは、商標出願データが法的なクリアランスのためだけでなく、新たなトレンドを特定するための競争情報や市場情報源として分析されている様子が示されています。この進化は、ブランド保護がテクノロジー主導型の積極的な分野になったことを示しています。商標専門家の役割はブランドテクノロジストへと拡大しており、オンラインでのブランド価値を効果的に保護し、活用するためには、デジタルプラットフォーム、e コマースポリシー、データ分析に関する専門知識が求められてい

ます。

第4章：知的財産専門家のための戦略的展望と提言

カンファレンスの主要テーマを総合的に考察することで、知的財産専門職の将来について明確かつ前向きな展望が得られます。AIの急速な統合は、陳腐化の脅威ではなく、進化の触媒となり、新たなスキル、新たな役割、そして新たな戦略を必要とします。

4.1. 知的財産専門職の将来：陳腐化ではなく、拡張

2025年のカンファレンスで圧倒的なメッセージとなったのは、AIは知的財産専門家に取って代わるのではなく、その役割を補完するということです。AIは一貫して効率化のためのツールとして位置付けられており、予備調査、文書翻訳、初稿作成といった、反復的で時間のかかるデータ集約型の作業を自動化するように設計されています。この自動化は、人間の専門家が「高付加価値業務」（高付加価値業務）[P20、P59]に集中できるようにすることを目指しています。これには、複雑な法的分析、戦略的コンサルティング、顧客関係管理、交渉など、繊細な判断、創造性、戦略的思考が求められる業務が含まれます。この見解は、AIが弁理士やその他の知的財産専門家の役割を根本的に変えるものの、完全に排除することはないという結論に至った広範な外部分析によって強く裏付けられています。¹²

エージェント型AIの出現は、このビジョンをさらに洗練させます。専門家が個々のタスクだけでなくワークフロー全体を委任するようになると、彼らの中核機能は実行から管理へと移行します。専門家の価値は、検索の実行速度ではなく、AIエージェントに最適な戦略を設計し、エージェントの出力の正確性と戦略的妥当性を批判的に評価し、その出力を法的またはビジネス上の一貫した議論にまとめる能力によって測られるようになるでしょう。

したがって、将来の知的財産専門家の中核となる能力は、人間とAIのチームを戦略的に管理する能力です。そのためには、「AIリテラシー」と名付けられる、新たな、より広範なスキルセットが必要です。これは単なるソフトウェアの熟練度にとどまらず、様々なAIモデルの能力と限界に関する深い理解、複雑な法的および技術的な質問に対

する迅速なエンジニアリングの技術と科学、そして AI によって生成されたコンテンツを検証するための高度な批判的思考能力を含みます。カンファレンス[P63]で教育機関が強調したように、この新しい時代において、継続的な学習と適応はキャリアの成功と長期的な成功にとって不可欠なものとなるでしょう。

4.2. 競争優位性のための実践的な推奨事項

2025 年特許情報フェア&カンファレンスの分析に基づき、競争上の優位性を維持したいと考えている知的財産部門、法律事務所、サービスプロバイダーには、次の戦略的アクションが推奨されます。

1. **「AI for IP」テクノロジー監査を実施**：発明開示、先行技術調査、翻訳管理、訴訟支援に至るまで、現在の知的財産ワークフローを体系的にマッピングします。これらのプロセスを、本レポートの表 2 に記載されている機能的な AI ソリューションカテゴリと比較します。これにより、ターゲットを絞った AI 導入による即時の効率化と戦略的な改善の可能性が最も高い上位 2〜3 つの領域を特定できます。
2. **制御された環境で「エージェント AI」を試験運用する**：発明開示の予備的な新規性調査や機械翻訳文書のレビューなど、具体的で大規模かつ明確に定義されたワークフローを選択します。「AI エージェント」ソリューションの大手プロバイダー（Amplified AI、Patsnap、TTDC など）と提携し、パイロットプログラムを実施します。目標は、実際の時間節約効果を測定し、自律出力の品質と信頼性を評価し、これらのツールを既存システムに統合する際の実践的な課題を理解することです。
3. **スキルアップと AI リテラシーへの投資**：知的財産チーム向けに、AI ツールの戦略的活用に焦点を当てた正式なトレーニングプログラムを実施しましょう。このプログラムは、基本的なソフトウェアチュートリアルにとどまらず、法的および技術的な問い合わせへの迅速な対応、機密情報を扱う AI の使用における倫理的配慮とデータセキュリティリスク、AI によって生成された技術的および法的主張を批判的に検証するための方法論など、より高度なトピックをカバーする必要があります。このカリキュラムを開発するために、カンファレンス[P63]で発表されているような専門教育機関との提携を検討してください。
4. **中国およびインドにおける知的財産戦略の再評価**：出願中心の戦略から、権利行使に即した戦略へと転換しましょう。現在の予算とリソース配分を見直し、侵害監視、訴訟の可能性に備えた体系的な証拠保全（プレゼンテーション P86 に記載さ

れているように、中国では重要な要素です）、最新の権利行使動向や戦略に関する現地弁護士との定期的な連携といった、積極的な対策が十分に実施されているかを確認しましょう。

5. **ブランド保護とデジタル戦略の統合**：知的財産、マーケティング、IT の各担当者からなるクロスファンクショナルチームを編成し、組織のデジタルブランドプレゼンスと脆弱性を包括的にレビューします。このチームは、ブランド TLD の導入 [P72、P82] と AI を活用したオンライン監視サービスの導入 [P12、P50] による戦略的価値とセキュリティ上のメリットを評価し、オンラインでの著作権侵害、偽造、ブランドなりすましに対する統合的で積極的な防御策を構築する必要があります。

引用文献

1. pifc2025presen_v2.pdf
2. 生成 AI 時代の AI 知財・契約講座 | スキルアップ AI | AI/DX 人材育成・組織構築支援パートナー, 8 月 9, 2025 にアクセス、<https://www.skillupai.com/ai-ip/>
3. AI 時代の IT 人材生存戦略：次世代の優秀人材像と必須スキルセットを徹底解説 - Zenn, 8 月 9, 2025 にアクセス、<https://zenn.dev/renue/articles/2f1ca6ac743456>
4. Microsoft 365 Copilot とは？業務活用例や最新機能も解説 - Alsmiley, 8 月 9, 2025 にアクセス、<https://aismiley.co.jp/ai-news/what-is-microsoft-365-copilot/>
5. AI ケース スタディとお客事例 | Microsoft AI, 8 月 9, 2025 にアクセス、<https://www.microsoft.com/ja-jp/ai/ai-customer-stories>
6. swimy innovation - 発明の創出～権利化まで知財部員の理想の業務を, 8 月 9, 2025 にアクセス、https://www.toyota-td.jp/business/ip/catalog/a-3-2_swimy.pdf
7. 知財業務支援に生成 AI を、トヨタテクニカルディベロップメントが支援ツール「swimy」を開発, 8 月 9, 2025 にアクセス、<https://response.jp/article/2024/09/26/386641.html>
8. サービス一覧 | TTDC トヨタテクニカルディベロップメント株式会社, 8 月 9, 2025 にアクセス、<https://www.toyota-td.jp/business/ip/service/>
9. 「AI で働く環境を幸せに、世界にワクワクを」会社紹介 | 株式会社エムニ - Wantedly, 8 月 9, 2025 にアクセス、https://www.wantedly.com/companies/company_6183378/post_articles/924624
10. 松尾研発スタートアップ株式会社エムニによる「AI 特許ロケット」 - よろず知財戦略コンサルティング, 8 月 9, 2025 にアクセス、<https://yorozuipsc.com/blog/ai8849262>
11. すごい知財 EXPO '25, 8 月 9, 2025 にアクセス、<https://super-ip-expo.com/2025>
12. AI 時代における弁理士の役割や代替できない価値とは？知財 AI サービスの例も - atmaLab, 8 月 9, 2025 にアクセス、<https://www.atmalab.co.jp/ai-articles/ai-for-patent-attorney>
13. AI（人工知能）は弁理士の仕事を奪うか否か, 8 月 9, 2025 にアクセス、<https://www.soel.com/wp/wp->

<content/uploads/2023/07/AI%EF%BC%88-%E4%BA%BA%E5%B7%A5%E7%9F%A5%E8%83%BD%Ef%BC%89%E3%81%AF%E5%BC%81%E7%90%86%E5%A3%AB%E3%81%AE%E4%BB%95%E4%BA%8B%E3%82%92%E5%A5%AA%E3%81%86%E3%81%8B%E5%90%A6%E3%81%8B.pdf>

14. 弁理士の今後 ～生成 AI 時代における知財専門家の新たな価値～ | 大瀬 佳之 / Ose Yoshiyuki, 8 月 9, 2025 にアクセス、
https://note.com/ose_yosshy/n/n1a68f721008c
15. AI は弁理士の仕事を「奪う」のではなく「超強化」する | Microsoft フレームワークを参考に - note, 8 月 9, 2025 にアクセス、
https://note.com/takao_sekiguchi/n/na6d771de9d7d